

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990400160		
法人名	ウェルエージング株式会社		
事業所名	グループホームせせらぎ		
所在地	栃木県佐野市栃本町3270番地		
自己評価作成日	平成26年8月20日	評価結果市町村受理日	平成26年11月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成26年9月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームでは、室内に閉じこもることなく外出できるよう、近隣の散歩を行い、食事やおやつも手作りを基本とし出来るだけ地元の食材で行い、調理をしています。そして食事が出来るまでの音や匂いなどを楽しんで感じて頂けるよう努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、唐沢山を望む市北東部の閑静な住宅街の中に位置し、近くには道の駅がある。基本理念に基づき、利用者が地域のなかで居心地良く、自宅のように暮らせる支援に努めており、利用者の中には、外出しても「ホームに早く帰りたい」と言う人がいるほどである。食事は、直売所や近隣住民・家族からの差し入れの新鮮な野菜等を使い、職員手作りの暖かい、家庭的なものを提供している。また、自治会に加入し、地域の行事に積極的に参加したり、災害訓練や運営推進会議に参加頂き貴重な意見や情報を貰うなど、地域と良好な関係を築いている。さらに、管理者と職員および職員間のコミュニケーションが良好で、職員から積極的に意見やアイデアが出されている。利用者の家族からの信頼もあり、利用者の健康のため、積極的に散歩を支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個人個人を尊重しオーダーメイドの介護を基本理念とし、嬉しい時には共に喜び、不安や寂しい時には傍らに寄り添う。そんな家庭的で暖かな介護できるよう、申し送り時に職員への超えかけをして実践に向け日々努力しています。	「一人ひとりを尊重したケアのやり方を考える」 オーダーメイドの介護を理念として廊下に掲げ、職員は利用者がその人らしい生活ができるよう、支援に心がけている。特に、新人職員には、理念の共有を指導し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入して町内会の行事に参加、また地域の神社の行事にも参加している。お向かいの豆腐や商店への買物にもご入居者と出掛けたり交流を図っています。	町内の住民として自治会に加入し、敬老会・運動会等のほか、年1回の地域の清掃にも参加している。事業所の行事には地域の人も参加、地元のボランティアや中学生の職場体験も受け入れている。近隣の方が遊びに来たり、野菜の差し入れがあるなど、地域との交流は良好である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣や中学校の福祉教育における体験の場として協力、何時でも地域の要請に対応出来るようにしていきます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告や意見交換を通してサービスの向上に向け努力している。また、家族交流会の中で研修報告会を行っています。	運営推進会議は利用者、家族、自治会関係者、市職員を構成員とし、年数回は消防署員にも参加して貰っている。活動報告が主であるが、地域や行政から情報ももらっている。家族からは利用者の状態の質問が多い。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加を頂き、現状に対する意見や情報交換しながら信頼関係を築いています。	市主催で年に1度、市内の他事業所グループホームと会議(施設リーダー)が開催され、交流を図り更なる向上に努めている。市担当者には、運営推進会議の報告、介護保険の手続きなどでアドバイスを貰い電話やメールで、情報交換に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルや資料を参考に身体拘束のない介護の実践に努めています。	身体拘束防止マニュアルに基づき、引き継ぎ時等で確認し合い、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。また、職員同士が、厳しい口調や語尾の上げ下げなどに注意し、拘束的な言葉遣いにならない様に配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	申し送り等により、入居者様ひとりのその日の状態を把握し虐待防止を図り、管理者は職員の声かけ等に注意を払い言葉の暴力や虐待の防止を図っています。		

グループホームせせらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時に利用者紹介のとき等に状況により職員への制度説明したり、ご家族様には説明の他にパンフレット等もお渡しする事もあります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時の重要事項説明書について説明し、入居者様やご家族の質問や不安についてお聞きし納得いただけるように努めてまいります。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置し無記名での自由意見も伺うように努めて参ります。	家族の訪問(運営推進会議・面会時・受診時)の機会を利用し、家族の要望を聞き、利用者の状況を報告している。法人で作成しているホームの様子を載せた広報誌を家族へ配布している。利用者との会話から確認できた要望や情報は家族へ電話で報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はミーティングや日常のケアの場面などその都度、職員の意見を聞くようにしています。 運営に反映に出来るように努力しています。	申し送り時や日常業務に職員が気付いた意見や提案を運営に反映させている。職員のアイデアで写真入りの自己紹介を作成し、廊下に掲示して、家族から喜ばれている。また、職員が玄関の壁や下駄箱の上を利用し季節に合わせて飾り付けを行い、利用者や来訪者に喜ばれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者・本社・5施設長の会議を実施し、研修や公休日等の職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を基本に、職員の状況に合わせて研修を受けてもらい、また管理者は積極的に研修情報を収集し受講してもらい、報告書を提出し振り返りによる成長を促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣施設との交流会等、ネットワーク作りやサービスの質の向上に努めています。		

グループホームせせらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接のときに情報を収集しながら交流を図り、顔馴染みの関係を築き、ご本人の思いを大切に安心してグループホームでの生活移行出来るように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談、面接時に当ホームを見学して頂き、ご家族が不安に思っている事や困っている事を伺い安心してご利用できるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やご本人状況や思いをふまえ他のサービスや利用方法や当ホーム利用導入方法について案を提示し選択できるよう支援します。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な範囲で調理や片付け、また洗濯や掃除といった家事の協力して頂き、お祭りや手作りおやつ等は職員も一緒に造り楽しみながら並んで食べさせて頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族や知人の方や心地よく合える環境を設け、受診や外出等もご本人の状況を踏まえ管理者・職員が双方の意見を伺いながら、ご家族との絆を大切に保てるよう支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の馴染みのあった方々との面会が心地よく出来る環境を心がけています。行きつけだった病院・店・美容院などの利用も積極的に支援しています。	馴染みの美容院が迎えに来てくれる利用者の方もいる。利用者の知人が面会の際は家庭的な雰囲気に対応している。利用者が買いたい物を希望すれば職員が支援対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの部屋に行き来したり、リビングで皆さんと過ごされる時間が大半です。ADL的に他の方のお世話が出来る方については職員が安全を見守り支え合いを支援しています。		

グループホームせせらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への異動終了時等は皆さんから寄せ書き等で見送り何時でも来ていただける様、声かけしています。亡くなられた場合は葬儀等		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員のふれあいにより一人一人の思いやり意向の把握に努めている。自分から思いを話さない利用者様には入浴や部屋に居る時など職員との個別ケアで本人の言葉を傾聴する事で意向をくみ取り支援に努めています。	職員は、利用者一人ひとりに耳を傾け、また家族から昔の話の聞き、意向の把握に努めている。思いを話さない利用者の場合、夜勤など職員と一対一になった時やお風呂でリラックスした時に思いを聞くようにし、買物に行きたい、ラーメンが食べたい等の情報は全職員で共有し、支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	起床や食事時間等は出来るだけご本人の生活習慣に合わせるようにします。レクは自由参加とし、ご本人の趣味活動継続に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕の申し送り等に状態変化の把握に努め、それぞれの生活リズムで過ごせるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りやミーティング等で職員の意見を聞くと共に家族の面会時などに意見や要望を伺い介護内容に反映させています。	職員会議や申し送り時に気づいた問題点や利用者の日常の様子を書面にまとめ、毎月かかりつけ医に意見を聞き、利用者にあった介護計画書を作成している。計画は半年に1回、本人や家族の意向を踏まえ見直し、状況の変化に応じて見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや伝達ノートを活用し入居者様の現状を把握するように努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院が必要となっても家族が来られない状況や、認知症の為職員の顔を忘れないように面会に行き洗濯物の交換や交流をしている。		

グループホームせせらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に積極的に参加したり、ひとりの家庭の行事(法事等)にも参加できるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は職員が同行して主治医に報告・相談している。家族が行く場合が行く場合は普段の様子などを記録した物をお渡しして診察の参考にして頂いている。	かかりつけ医の受診は家族が同行することが基本だが、家族には利用者の状態・日々の様子等のメモを渡している。家族の意向で職員が受診の付き添い支援をする場合は、その結果を家族へ報告している。協力医によるインフルエンザ予防注射を実施しており、必要により往診もしてくれ	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化等を看護師に報告し、看護師が対応し必要であれば主治医に連絡を取り適切な受診が出来るように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には病院の看護師・相談員とサマリーの交換や面談により連携を図る。また入院中も面会にも行き看護スタッフとの情報交換する等、入退院がスムーズに出来るように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホームでの看取りを希望され、「看取りの指針」を理解・同意を頂いた方には主治医を始めとする医療スタッフとの連携を図り支援に取り組んでいます。	入居時に「看取りの指針」を説明し、本人・家族に当ホームでの看取りの希望の有無を聞いている。かかりつけ医の往診・看護師の指導を得ながら、家族・職員の支援体制ができています。ホームでは過去に数例の経験があり、緊急時の連絡体制がある。職員はAEDの操作等を身に付けるなどの努力をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED設置に伴う講習や普通救命講習を定期的に受講し、救命に必要な応急手当を見につけるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	基本は、年2回の夜間も想定した避難訓練を実施しているが、施設内研修として3ヶ月に1度訓練を行う様にしている。契約消防商会に依頼し消火器使用訓練も実施している。また警備会社との連携も行っている。	年2回、消防署立会で夜間も想定した避難訓練を、併設の小規模多機能施設と合同で実施し、地域住民も参加している。ホーム内の連絡体制は全職員が把握している。連絡網に近隣の住民の方にも入って貰っている。火災通報装置・警報装置・スプリンクラーは設置済み。水・乾パン・缶詰等の備蓄もある。	今後、職員間で連絡体制や火災通報装置の操作方法の再確認を引き継ぎ時などに行うとともに、地域との連携を強化するため、地元の消防団へ働きかけ、合同での避難訓練を期待したい。

グループホームせせらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの状態を理解し、入居者様の声を否定せず、傾聴・声かけを心がけ、排泄等の失敗体験をさせない為にも他の入居者様に気付かれないようなさり気ない排泄誘導に努めている。	職員はホームの理念を念頭に置き、利用者の個人個人の人格を尊重し、敬語で言葉かけをし、必ず「さん」を付けている。職員は利用者一人ひとりの性格を把握し、利用者同士のトラブルが無いよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何か行う時には本人に説明し、意思確認をしながら支援しています。(レクや散歩等の参加含む)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ自分のペースで生活していただけるように就寝・起床・朝食時間等も柔軟な支援に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1回/月の出張理美容を利用したり、希望により外出時に化粧のお手伝いをします。また、希望でマニキュアの支援等もします。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地元の食材等を取り入れた家族的な食事を心がけ、その方の状態に応じて準備や片付けを行っています。入居者様の家族に頂いた野菜は直ぐに調理するようにしています。	食材は近くの直売所で購入し、近隣住民や家族からの差し入れも利用している。調理は資格を持っている職員の指導で交代で作り、ミキサーで刻んだり、一品ずつ出すなど工夫もしている。また同じテーブルで職員も介助しながら食事を取っている。自分で下げることが出来る利用者は自分でするようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎年後に摂取量の記録を行い摂取状況の把握に努め、また小まめに水分を取って頂けるように飲水を始めコーヒー・日本茶他用意し、気分や好みで水分補給できるよう工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人の状況に合わせうがいや歯磨きの支援をし、職員は確認表にチェックしています。		

グループホームせせらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日誌に排泄状況を記録することで排泄パターンを把握し、出来るだけ失敗体験をしない様にトイレ誘導を心がけています。	排泄は、職員がさりげなく定期的に声をかけ、見守りをしながら、自立に向けた支援をしている。失敗した場合は周囲に分からないように対応し、本人の尊厳を守りながら処理している。職員は一人ひとりの排泄パターンを把握している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩で身体を動かすようにしたり、朝は牛乳や飲むヨーグルト、また食事やおやつに芋、バナナやかんてん等を取り入れ水分補給と共に支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者様のタイミングを図り入浴して頂いたり、希望を取り入れている。入浴剤も多種取り揃え香りや色を楽しんで頂いています。	入浴は基本的には1日おきに、午前中2名体制で実施しているが、利用者の希望や体調に合わせて対応している。利用者が入浴を楽しめるよう、季節によって、ゆず湯やしょうぶ湯の日を設けている。利用者はマイシャンプーを使用し、入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々気分や体調で休憩できるよう支援している。眠れない時等は会話や趣味活動またお好きな飲み物等を提供し心地よく居眠りを誘えるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬説明書をファイルしてあり確認できるようにしている。看護師、職員が内服確認表を作成し、チェックしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除洗濯や食事の片付け等、無理なく出来る事を支援したり音楽や手芸などお好きな事が出来るよう支援しています。場合によっては飲酒の相談も受けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調を見ながら近隣への散歩やお向かいの豆腐屋さんへの買い物をしたり、野外レクを支援しています。隣接している小規模多機能と合同レクや誕生日会を開催して利用者楽しんで頂いています。	利用者の希望・体調に合わせ、天候にもよるが、ほとんど毎日午前中、近隣を気分転換のために散歩している。利用者の要望で近隣の雑貨店や野菜の直売場へ買い物に出かけている。水戸への長距離ドライブや市内外での外食など利用者が楽しめるように計画し、支援を行っている。	

グループホームせせらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で管理を希望されている方は小額を所持され管理している。殆どの方は、外出時等に自分で買う楽しみを感じて頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は取り次ぎの形になっていますが、状況をみながら自由に、また手紙など郵便も出し入れも自由で出来るようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出入り口でお香を焚いたり、リビングは皆さんが思い思いに過ごせる空間を用意し、調理に参加したり出来るまでの音や匂いを感じられるように努めています。	玄関のインテリアを職員が季節ごとにコーディネートし、明るい雰囲気を保っている。お香が炊かれ、来訪者・利用者・職員を和ませている。リビングは中庭から日差しが差し込み明るく、中庭ではバーベキューができる。廊下は広く、室内に不快な臭いもなく、利用者が居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間のリビングからはベランダから中庭への出入りでき、また畳スペースや、台所にも椅子を置き思い思いに過ごせる空間作りに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は消防法により防災カーテンとし、清潔の為に洗面台・エアコンの外は入居者様の馴染みのある家具や生活用品を持ってきて頂いています。	居室は温度調整がなされ、呼び出しブザー・防火用カーテン・スプリンクラーの備えがあり、安全対策が図られている。居室には馴染みのベット、タンス、写真等自由に持ち込むことができ、職員が清掃を行い居心地よく過せる配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに合った福祉用具の活用や、トイレ・風呂場・廊下などには手すりを設置して安全配慮しています。		